

# くろかわ はぎの 国道41号黒川・萩野地区道づくりワークショップ

受賞機関 国土交通省中部地方整備局名古屋国道事務所

はじめに

名古屋の中心市街地から始まり、一路、日本海へと続く国道41号は、中部の重要な幹線道路のひとつである。この沿線の名古屋市北区に位置する黒川・萩野地区では、電線共同溝整備にあわせて歩道空間を整備するにあたり、この地区での道路ユーザーのなかでも特に、歩道を利用する地域住民のニーズに応えた道路事業を行うことを旨とした。

この黒川・萩野地区道づくりワークショップは、地域住民との協働により、よりよい歩道空間づくりを行うことを目指した住民参加型事業であり、事業を進めるにあたっては、下記の2点を重要な検討テーマとしている。

- 速やかに対応可能で、かつ利用者にとって利用勝手のよい歩行空間の整備計画。
- 車線運用の再構築を含めて考える、車だけでなく人にもやさしい道路空間の将来像検討。

事業の概要

路線名：一般国道41号 黒川・萩野地区  
歩道の延長幅員：L=400m(往復800m) W=6.0m  
事業実施期間：平成14年度～平成15年度  
ワークショップ参加人数：地域住民 32名  
ワークショップ開催回数：全8回

事業の特徴

道づくりワークショップは、黒川・萩野地区に隣接する4学区16町から選出された地域住民32名を中心としたメンバーで構成されており、その開催回数は1年を通して計8回にわたった。

住民参加型事業を成功させるには、住民の参加への賛同や積極的な参加意識を促すことが不可欠であり、さらには、事業に対する興味や好奇心を十分に引き出すことが重要である。そこで、このワークショップでは、下記のような嗜好を凝らした試みを実施することで、それらの獲得に努めた。

## (1) 街角インタビューの実施

41号の課題について、参加者自身が往来の歩行者や沿道商店主に直接インタビューを行った。

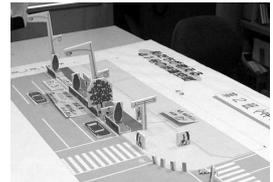
- (2) 五感に訴えるツールを活用したデザイン検討  
簡易な立体模型やCGイメージ、実物の舗装材などを活用し、五感フル稼働での検討を行った。

## (3) 歩道照明の実証実験の実施

実際の歩道に3パターンの歩道照明を設置し、夜間の明るさを体験したうえで照明を決定した。



街角インタビューの様子



立体模型作品

一部の歩道整備が完了した時期を見計らい、事後評価のためのワークショップを開催し、でき栄えの採点を行った。事後評価の結果では、約8割の方に「良い」との評価をいただいた。「良い」の評価を分析すると、上位から「電線類地中化」「道路景観」「バリアフリー」についてであり、これらは、地域住民の意見が十分に反映された整備が行えたためと考える。

また、事務所広報活動の一環として広報誌やホームページにも掲載した結果、三度にわたるTV報道や新聞社4社の記事など、メディアのニュースとして取り上げていただくこともできた。



舗装、サインなど一部が完成した歩道空間

おわりに

この取り組みをきっかけとして、この地区では「道の在り方」に関する地域住民の意識向上がみられるようになった。平成15年8月には、地域住民100名規模による41号の清掃活動が行われたほか、定期的に植栽の手入れを行っていきたい等の申し入れもあり、対象地区においてボランティア・サポートの芽が息吹き始めようとしている。

賛助会員 大有建設㈱